

第5回（仮称）都市のグランドデザイン有識者委員会 議事概要 まとめ

【区民提案・意見募集の結果について】

・有識者委員会の認識や方向性は区民アンケートの結果と大きな相違はないことが確認できた。区民からの提案・意見はうまく取り入れてほしい。

【理想とする将来のまちの姿について】

・将来的に多様なライフスタイルが想定されるが、基本とする方針を「住宅都市」とするとある程度定義が狭まってしまうため、「生活都市」とすることでもう少しイメージを膨らませることができる。

・区民が興味を持てるものにするためには、練馬区という住宅地だからこそできる、車が通行できない遊歩道の環状線のような現在と全く違う新しい形を示すことが必要である。

・練馬区には住宅だけでなく個人、法人問わず企業も多く立地しており、面白いことを発信している企業もあることから、「働く場」についての記述を加えてほしい。

・将来的に、住みながら働けるようなライフスタイルは、練馬区でも広がっていく可能性があり、住みながら、もしくは住む場所と近い場所で働けることに価値があるということ、方向性や基本方針の中で都市像として示すべき。

【目指すべき都市像の表現内容について】

・即地的でないとしても、地区別にこんな生活ができる場所が必要ですと都市像には示されていることが望ましい。

・都市づくりの方向性と取組として示されている内容は、場所によってプライオリティがあり、全部が当てはまる地域、一部しか当てはまらない地域と様々であるにもかかわらず、一括りに練馬区のグランドデザインとして説明してしまうと、今後の施策の展開がわかりにくい。

・将来のまちの姿について、区が「こうあるべき」と提示する時代ではないと思うが、ある程度実現の可能性があり、区が支援するまちづくりの発信になるようなグランドデザインであるべきである。

・グランドデザインの対象は区民であり、抽象的で即地的なものでないとしても、区民が30年後の将来の生活を想像できるものになれば意味のあるものになる。

・地域の環境が活かされている姿や構造的ポイントなどを軸として、地域の特色が活かされた多様性のあるみどりの豊かさをどう作っていくかという、30年間のプロセスも重要である。

・区の典型的なまちや市街地を具体的にイメージして、そこでの生活シーンを描写するのが良い。現状分析の結果として課題があると思うので、そこで空間計画につながるような地理的な分析を行うと良い。

・みどりや交通はネットワークだからこそ意味を持つものであり、個別の地区ごとのモデルだけだとネットワーク形成の部分が漏れてしまうため、別出しでまとめた方が良い。

・都市像はネットワークと地域の関係性を骨格として示せる部分である一方、方向性は課題に応じた側面があるので、この役割を整理すれば都市像と方向性を両立できる。

【今後の進め方について】

・成果物の全体構成がよくわからず議論がしにくいため、報告書の構成を事務局案として明確に示して欲しい。